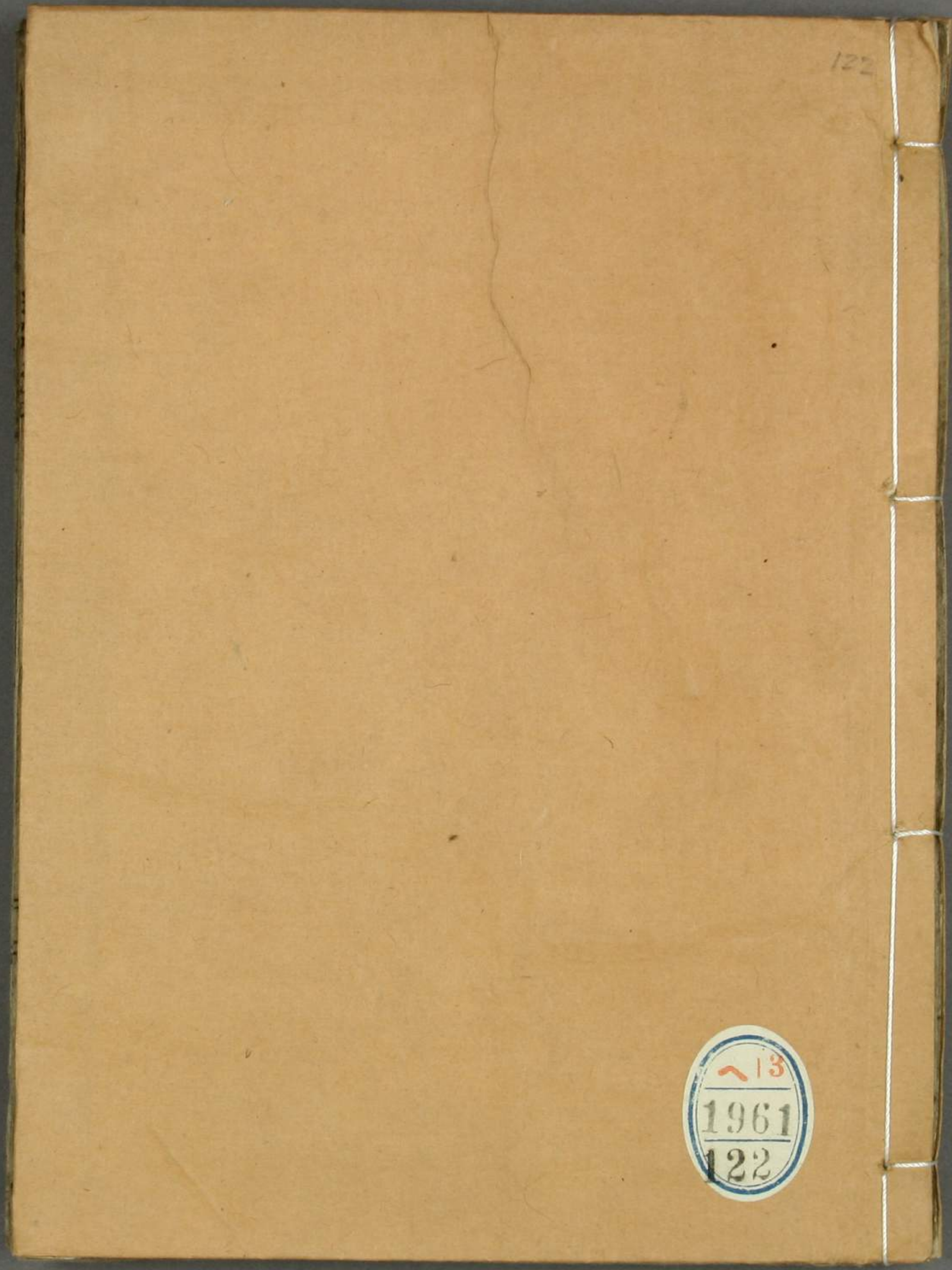
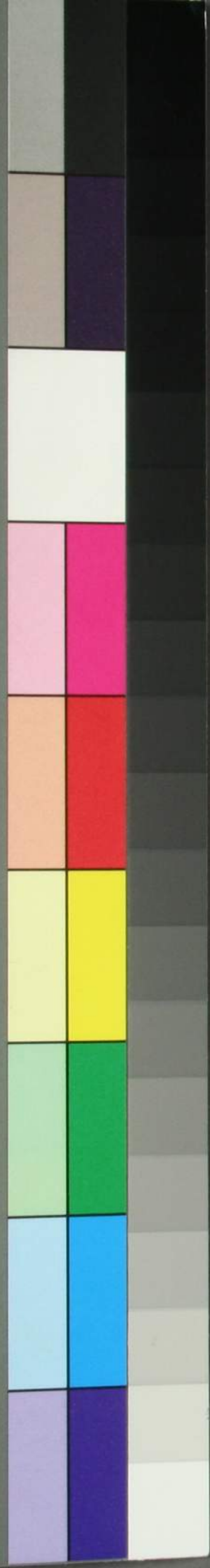


KODAK Gray Scale



13
1961
122

122



新刻
鶴殿
梓



語くわら

居こ寐ね物もの

敵かたみ討うら雑ざ

前ぜん編へん

中

122 六册合

遠
1961
104

13
1961
122

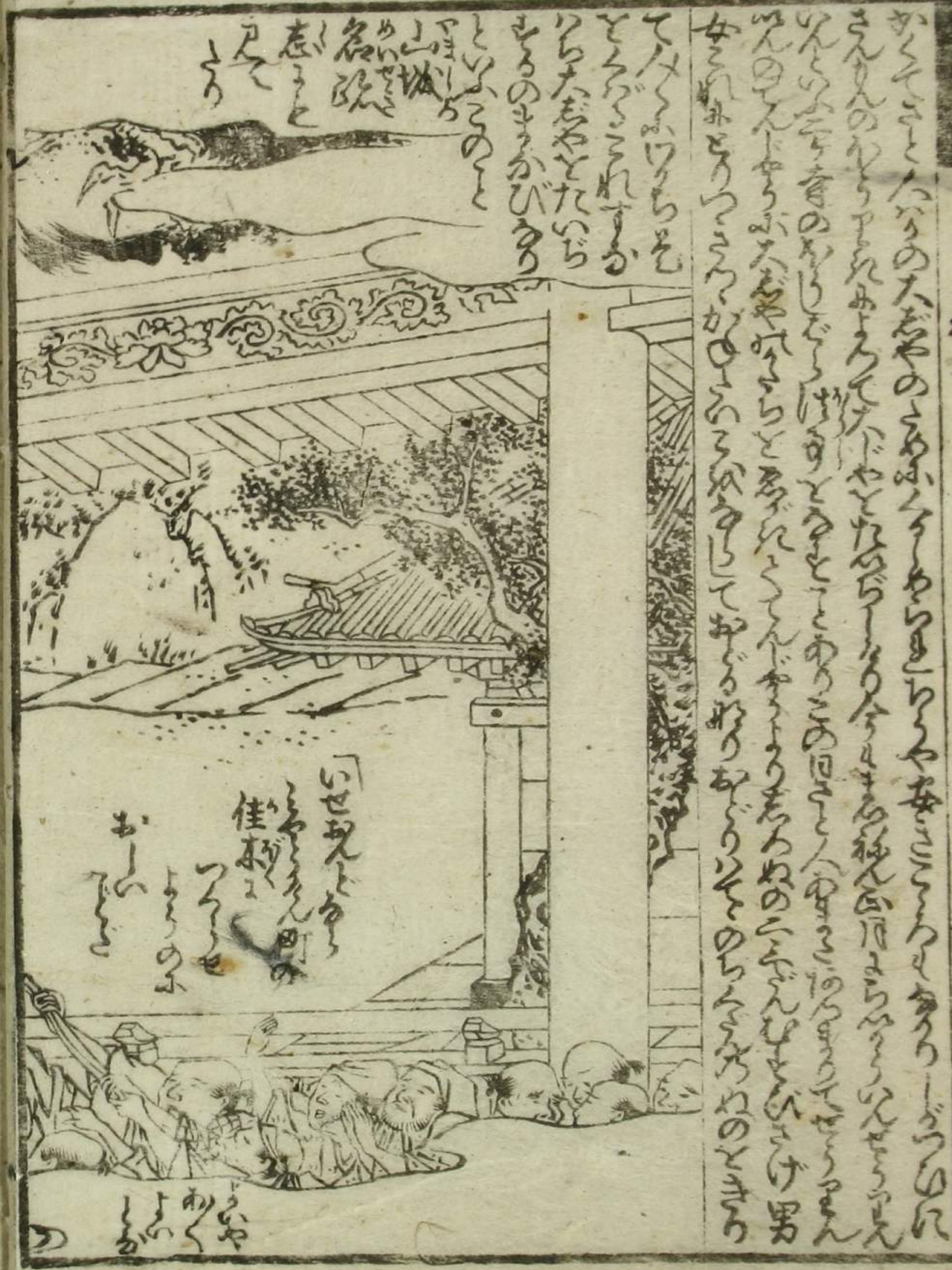
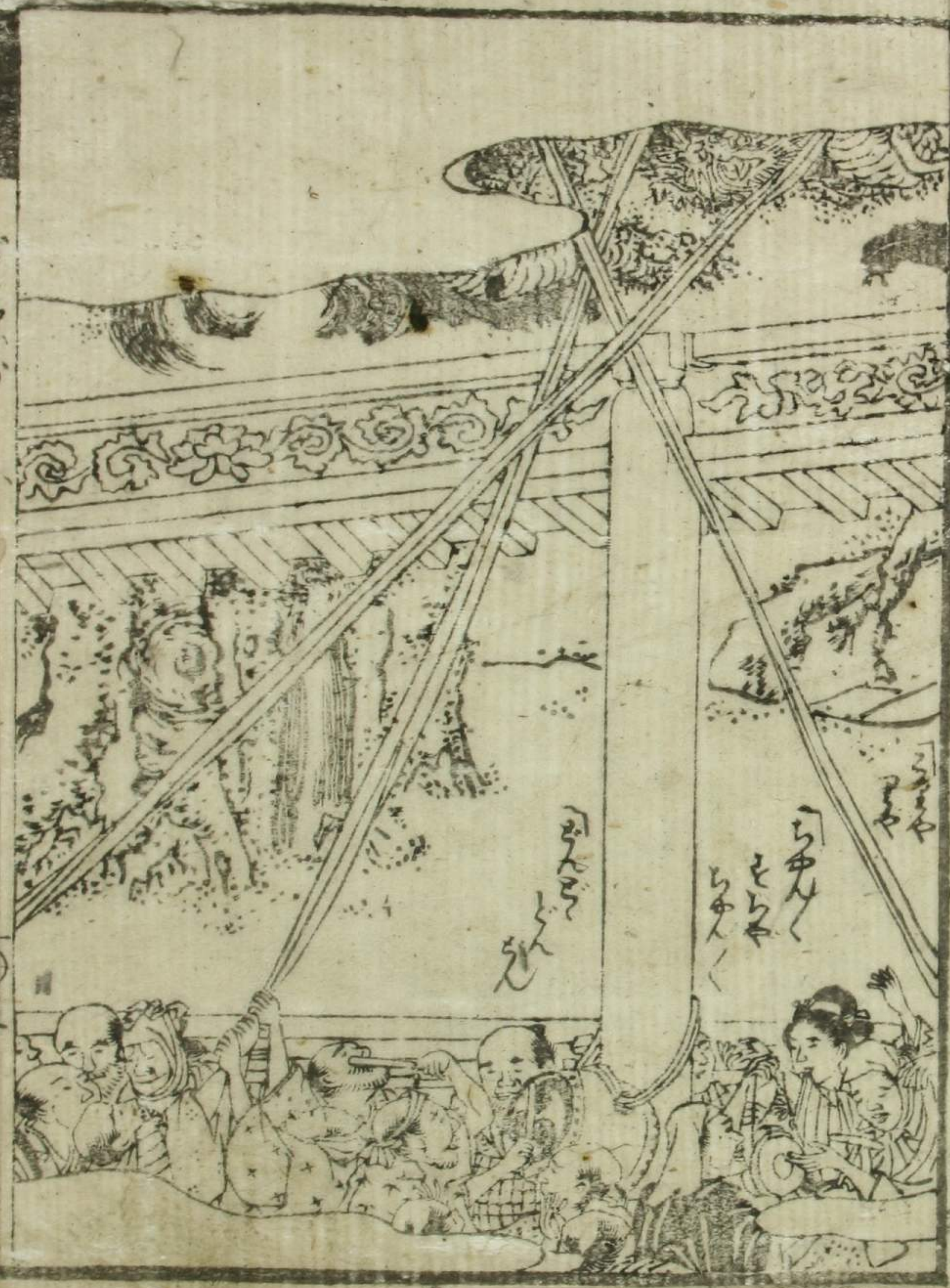
前編 三 冊

粵東印 雜居寢物語全本六冊 今更前後二編
 右内神景森々 幸三 おろろ死と救ひ江文大明神 禱
 子と攀一 支幸三 男児金十郎 女児溪孫 人とあるれ談
 安積勝躬 夢小貌鳥 契し奇説と附すその後編三冊を
 十坂伴九郎 右内と闇撃よま事 および溪孫が亡魂来りて
 見と養育の事 勝躬夫婦 復讐乃始末を載と因る
 閱者前編後編と合考 意に合通トかじ唯坊賈ハ
 價乃いやし 利のりととて 近日作書れ例の傲の
 この書文化乙丑の春三月録 圀工刷人の功多て今茲丙寅の
 正月 發き行のめ 通油町 書肆 仙鶴堂の主なり

東都

曲亭馬琴誌





かくてさうなるの大ぢやのさあふくちからしりやあまこころのさうりーごうひれ
 さんんのもちりたれあふちてたどやとたならしりるの今もあまの御心よりさうりいせうん
 いんのかき音のあしごうげうとることありこの回しり人かまのちんまてさうりあま
 んのさうりやうぶふたぢやあふちとあふれとんかまよりあふれぬのこふんひんあけ男
 女あまさうりつごうかひのさうりあふちしてあふれあふちりあふちりあふちりあふちり
 てんかまのさうりあま
 とらたぢやとたいら
 ちるのさうかひり
 といふのさうり

いせせんと
 佳物
 つうせ
 おい
 ちるのさ

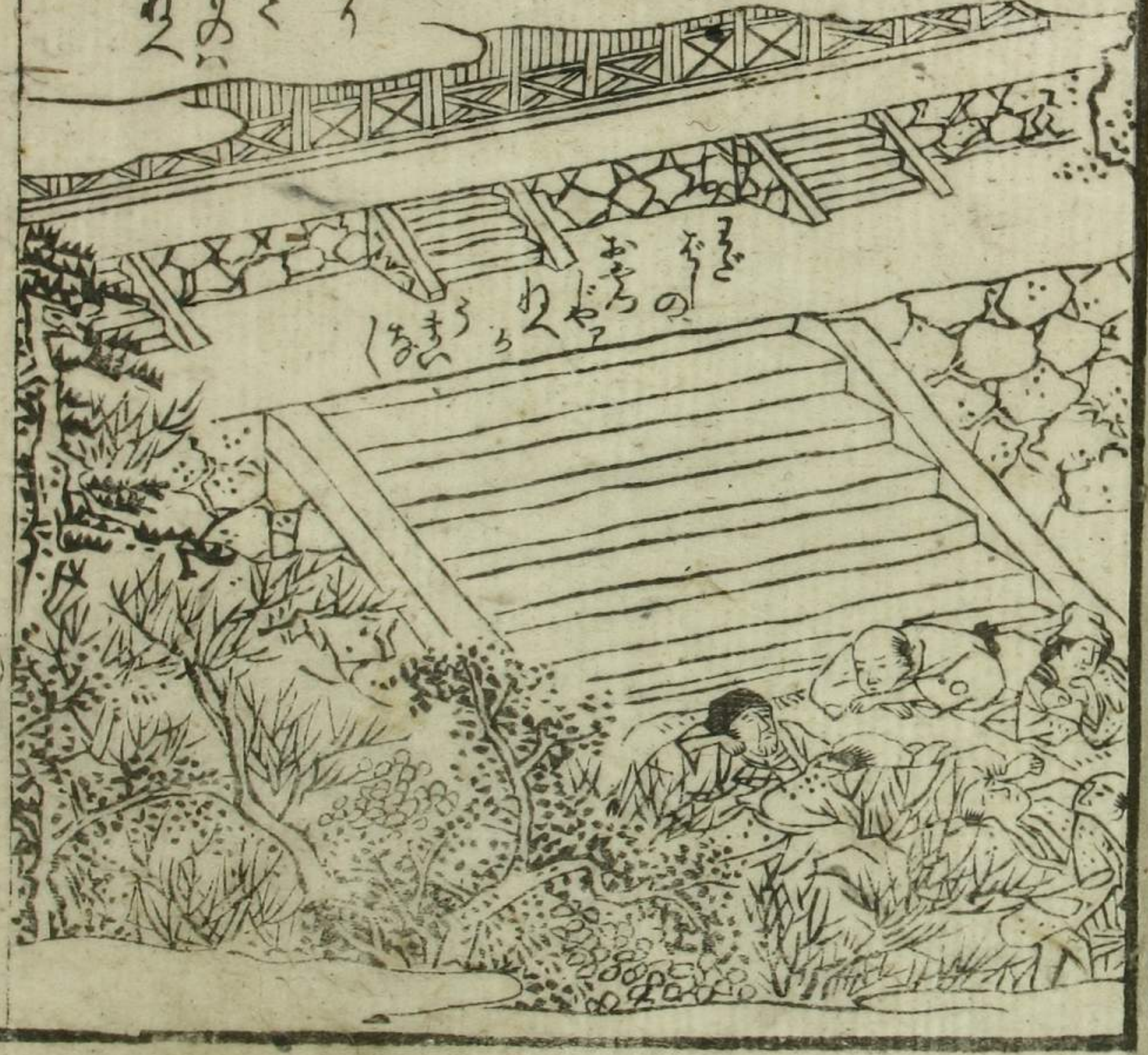
ちるのさ
 ちるのさ

ちるのさ
 ちるのさ
 ちるのさ

あつふりつたよやくらひのちそのわく
まろとあつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく



のあつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく
あつふりつたよやくらひのちそのわく



あつふりつたよやくらひのちそのわく

あつふりつたよやくらひのちそのわく

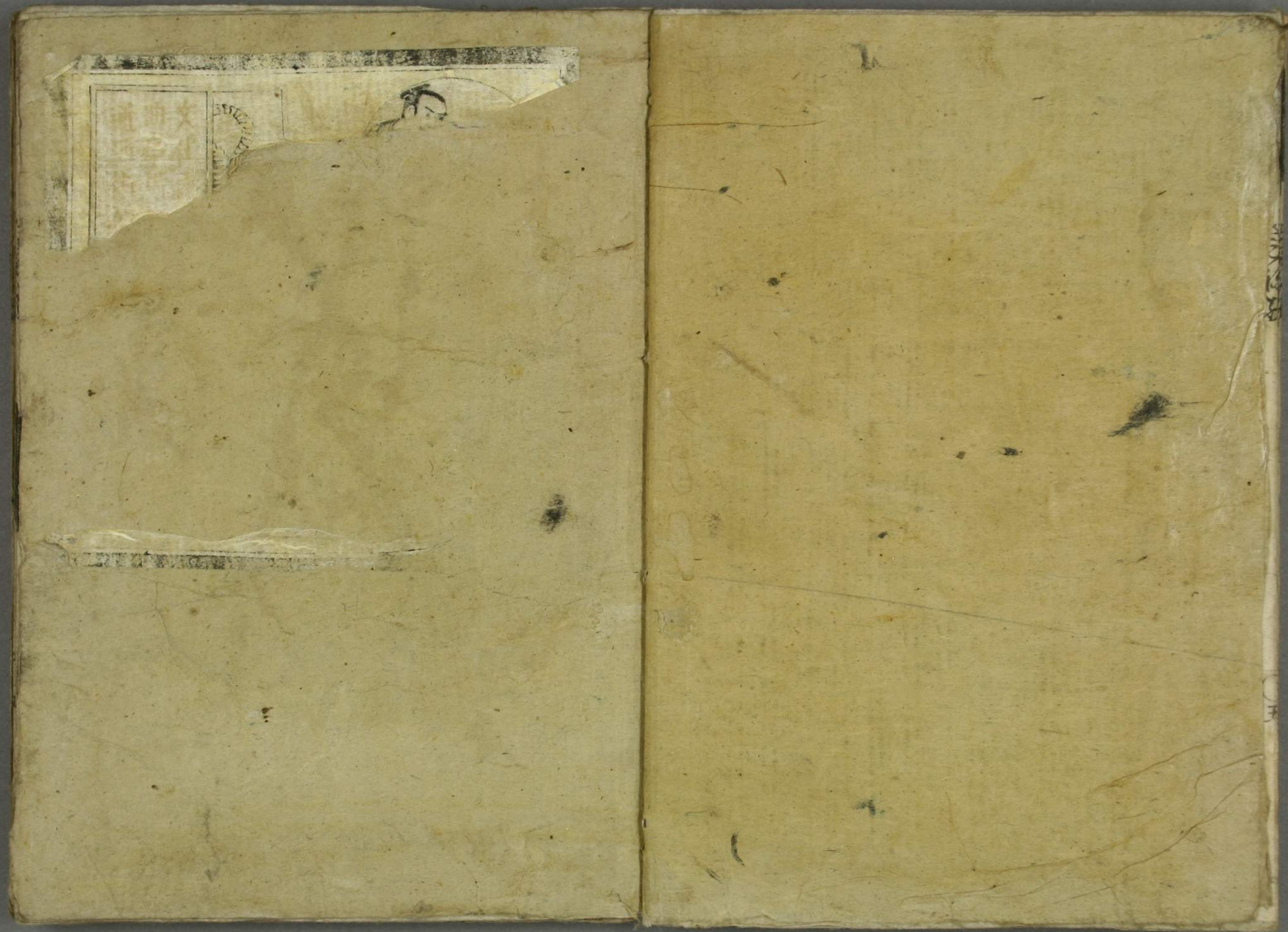
右内かくゆきふんねはこれとて
 子ふふまをまのめををけさ
 子ふふまのめをねまふんかへい何とてを
 まけまといのることありありのちのめは林
 はがそのいふ中 せんちふんかんとあけくあすの
 まふふまをりてふんかへいを大にうにまのめ
 そのさうらういふまをりてふんかんとあけくあすの
 まふふまをりてふんかへいを大にうにまのめ
 てんよりまをまけけふいゆめくまをりて
 なるまをりてふんかへいを大にうにまのめ
 せんちふんかんとあけくあすの
 まふふまをりてふんかへいを大にうにまのめ



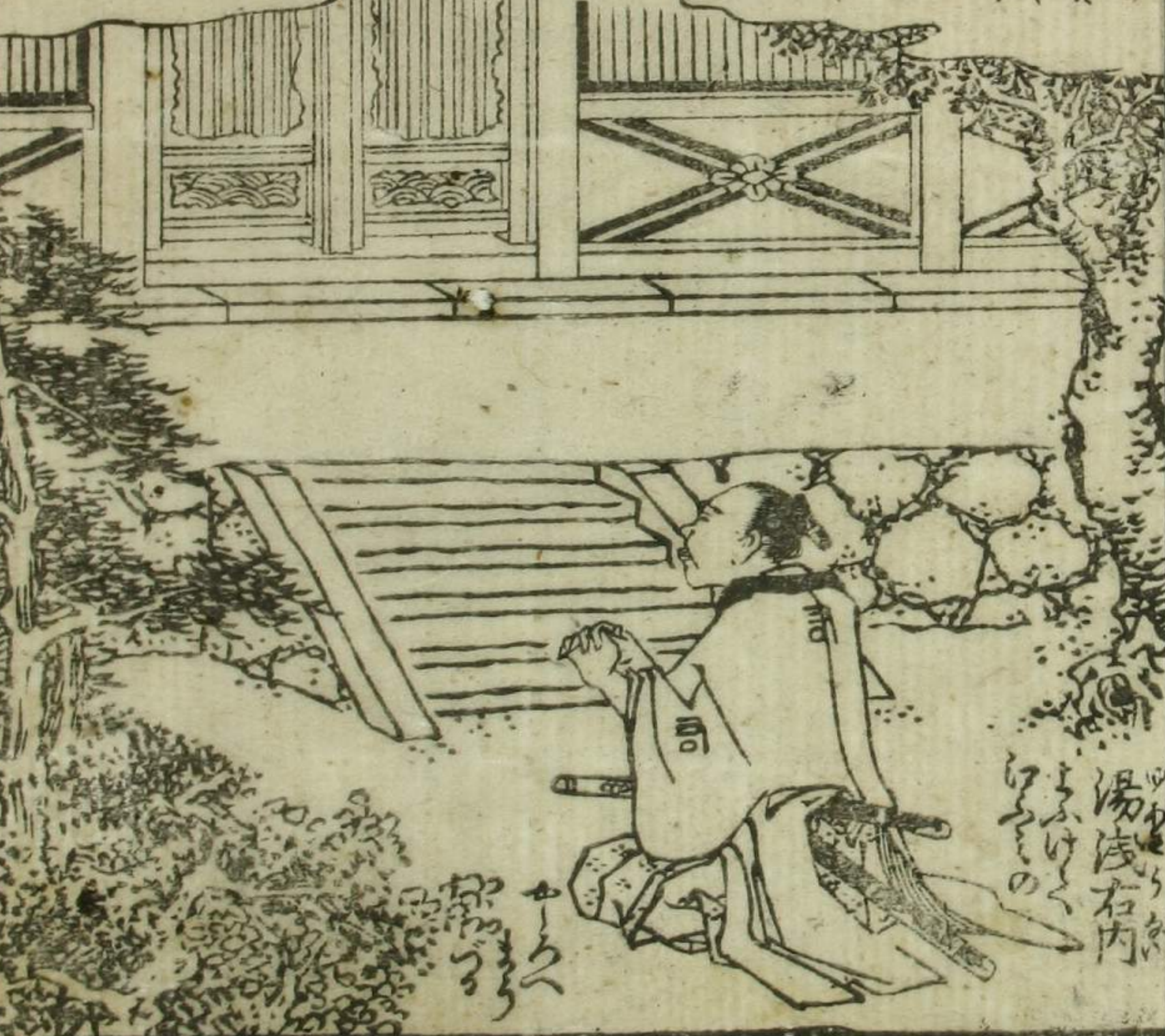
すじえたるひ
 心をみるも
 右内を十と
 ういらいつてあよ
 まへんえの
 やらへん
 けんそ

右内 妻

右内
 ついで
 せんす



かして右衛門のあよねのく
 せうりした人ばあちの申しよ
 さんけいしとらとらうらあらん
 みあの中うんとうせまをよぶよ
 んるまをせとらあちちを
 んらとらもつのおんあを
 あちとらとらとらとらとら
 までとらとらとらとらとらとら
 らいあちとらとらとらとらとら
 さうあちとらとらとらとらとら
 にあちとらとらとらとらとらとら
 りつあんあちとらとらとらとらとらとらとら
 ふけとらとらとらとらとらとらとら
 ちんあちとらとらとらとらとらとらとら
 ちんあちとらとらとらとらとらとらとらとら



湯浅右内
 ちんあちとらとらとらとらとらとらとら
 ちんあちとらとらとらとらとらとらとらとら

湯浅右内



山あそ右衛門のけしきの中きき
 おらうひやふんすひりまをわ
 る経んえちつちあつんと
 ころのいふまにえらうとてあ
 わりていふとつらうまをま
 ちてあそふるしほまを月あ
 右衛門あまふんえんてあつ
 月のあつちあそふまを
 ころのいふまにえらうとてあ
 わりていふとつらうまをま
 ちてあそふるしほまを月あ
 右衛門あまふんえんてあつ
 月のあつちあそふまを



そのせいんと
 たのしきなる
 かの
 まの
 けしき
 まの
 まの

扱まきとあつちあそふ
 けしきとあつちあそふ
 てあそふとあつちあそふ
 やせのせいんとあつちあそふ
 すまのせいんとあつちあそふ
 せんじとあつちあそふ
 たの中ききとあつちあそふ
 まのせいんとあつちあそふ
 おらうひやふんすひりまをわ
 る経んえちつちあつんと
 ころのいふまにえらうとてあ
 わりていふとつらうまをま
 ちてあそふるしほまを月あ
 右衛門あまふんえんてあつ
 月のあつちあそふまを

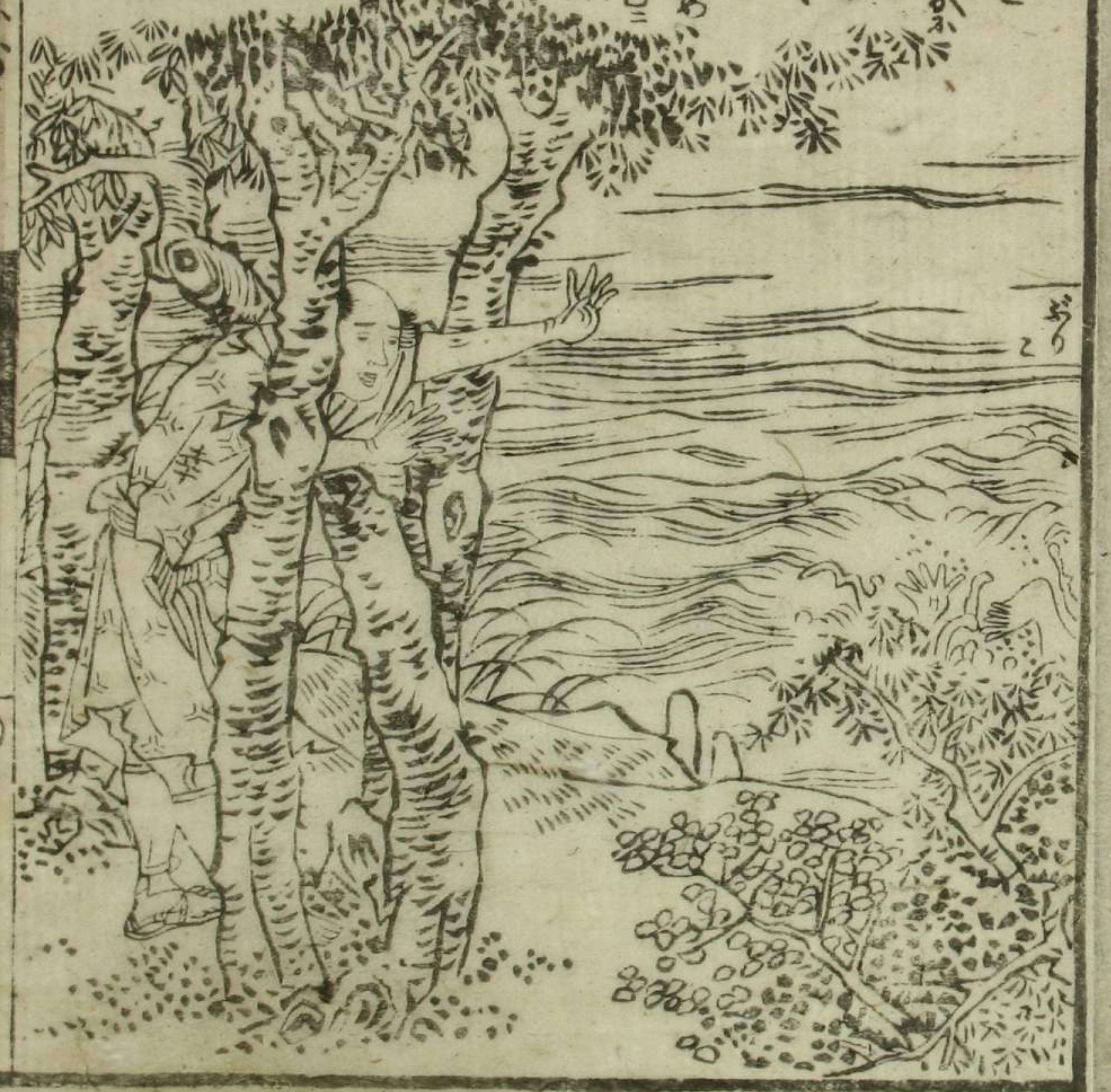


けしき
 まの
 まの
 まの

きまがひきわあやあせかん
小あそひもあつらひらしく
こころもあつらひらしく
それゆゑのあつらひらしく
ゆゑもあつらひらしく
福瓜あつらひらしく
いとあつらひらしく
とつけあつらひらしく
きまがひきわあやあせかん
とつらひらしく
きまがひきわあやあせかん
とつらひらしく
きまがひきわあやあせかん
とつらひらしく



あやあせかん
小あそひもあつらひらしく
こころもあつらひらしく
それゆゑのあつらひらしく
ゆゑもあつらひらしく
福瓜あつらひらしく
いとあつらひらしく
とつけあつらひらしく
きまがひきわあやあせかん
とつらひらしく
きまがひきわあやあせかん
とつらひらしく
きまがひきわあやあせかん
とつらひらしく





1714

あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき



あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき



あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき
あまに有るはこころを
たはすはなれたよき

されどやうらなはなれしもの
 ありしとてふらんそあらし
 はるまじきものひまもあはれ
 れのゆめをみよふ人のとらひ
 のまをりしあはれいふゆめ
 すまじきたづねのりつひ
 つかうれまらぬゆめあはれ
 もよひいひかひひらきつ
 つのまをりしあはれいふ
 つかうれまらぬゆめあはれ
 あはれいひかひひらきつ
 つのまをりしあはれいふ
 すまじきたづねのりつひ
 つかうれまらぬゆめあはれ
 もよひいひかひひらきつ
 つのまをりしあはれいふ



馬琴依

○これよりすまらうつんま
 らるゝあはれいひかひひら
 つかうれまらぬゆめあはれ

四天王刺書集録 全十冊
 櫻姫曙草紙 全五冊
 漢楚軍談後編 全五冊



十次郎の事

十次郎は名をかくしてあまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる十次郎は名をかくしてあまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる

あまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる

あまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる



あまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる



あまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる

あまのりやふゑをたむけしむるをよめるおのれわはせしむるをよめる



此の世に生れしは
 皆の世に生れしは
 今も昔も同じく
 生れしは死するに
 過ぎず。

右の世に生れしは
 皆の世に生れしは
 今も昔も同じく
 生れしは死するに
 過ぎず。

大それたる事
 ぢいさん
 ようやく
 まるく
 まるく

伊勢月参詣



や
 び
 び
 び



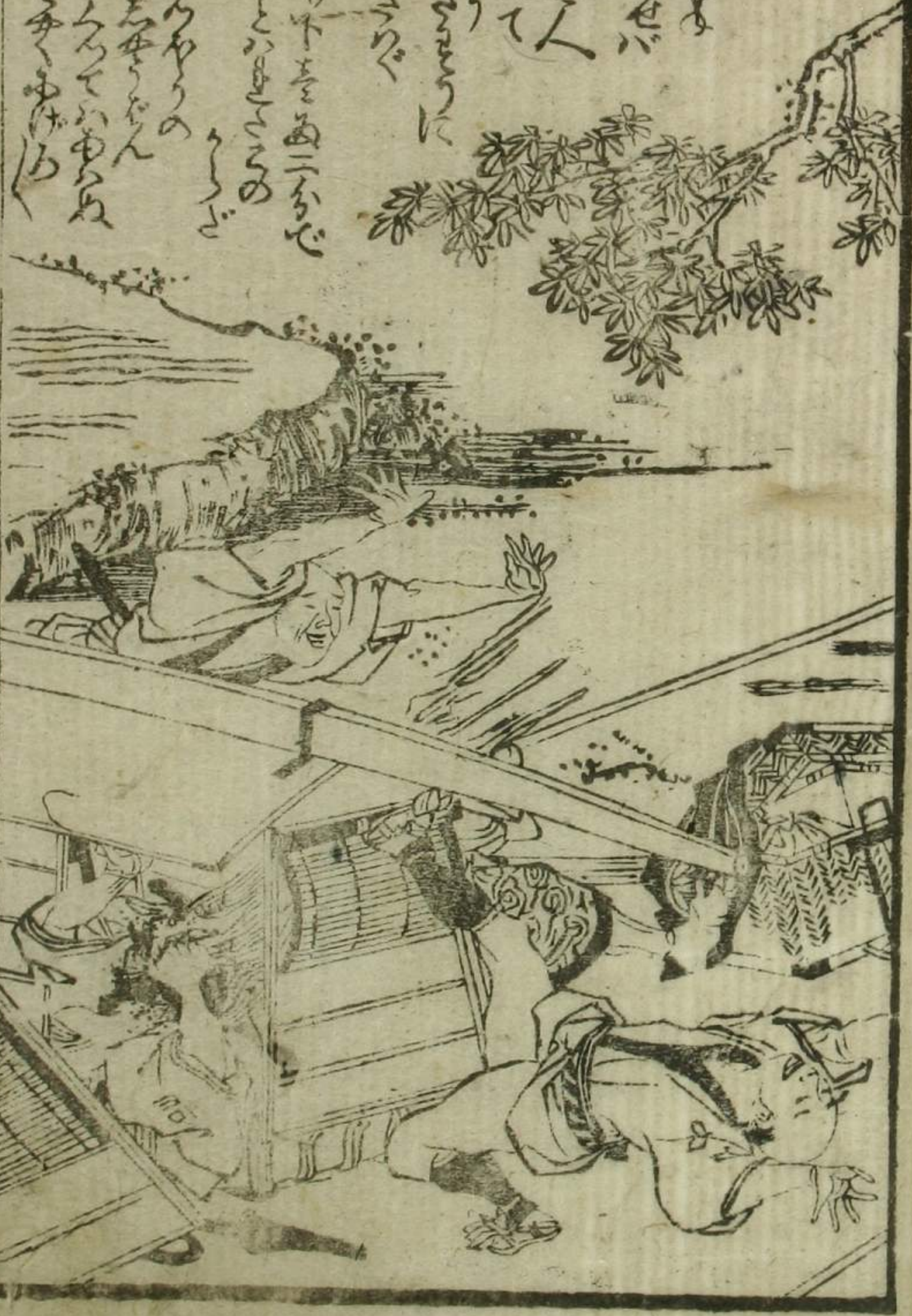
司 さらだんぢ
 えつらうまて
 右内公
 うらら

大内つたの
 わさ大さる
 うららうま
 ののららを
 いせやう山
 ざののらら
 るらららら日
 ますららら
 うららららら
 やららららら
 あららららら
 げららららら
 うららららら
 うららららら
 うららららら
 のの
 のの
 のの



右内が
 ひがな
 うららららら
 ららららら
 うらららら
 ららららら
 うらららら

上 下 々々
 やららららら
 うらららら
 うらららら
 うらららら



かたひしきさかき
 ... (vertical text continues down the left margin) ...

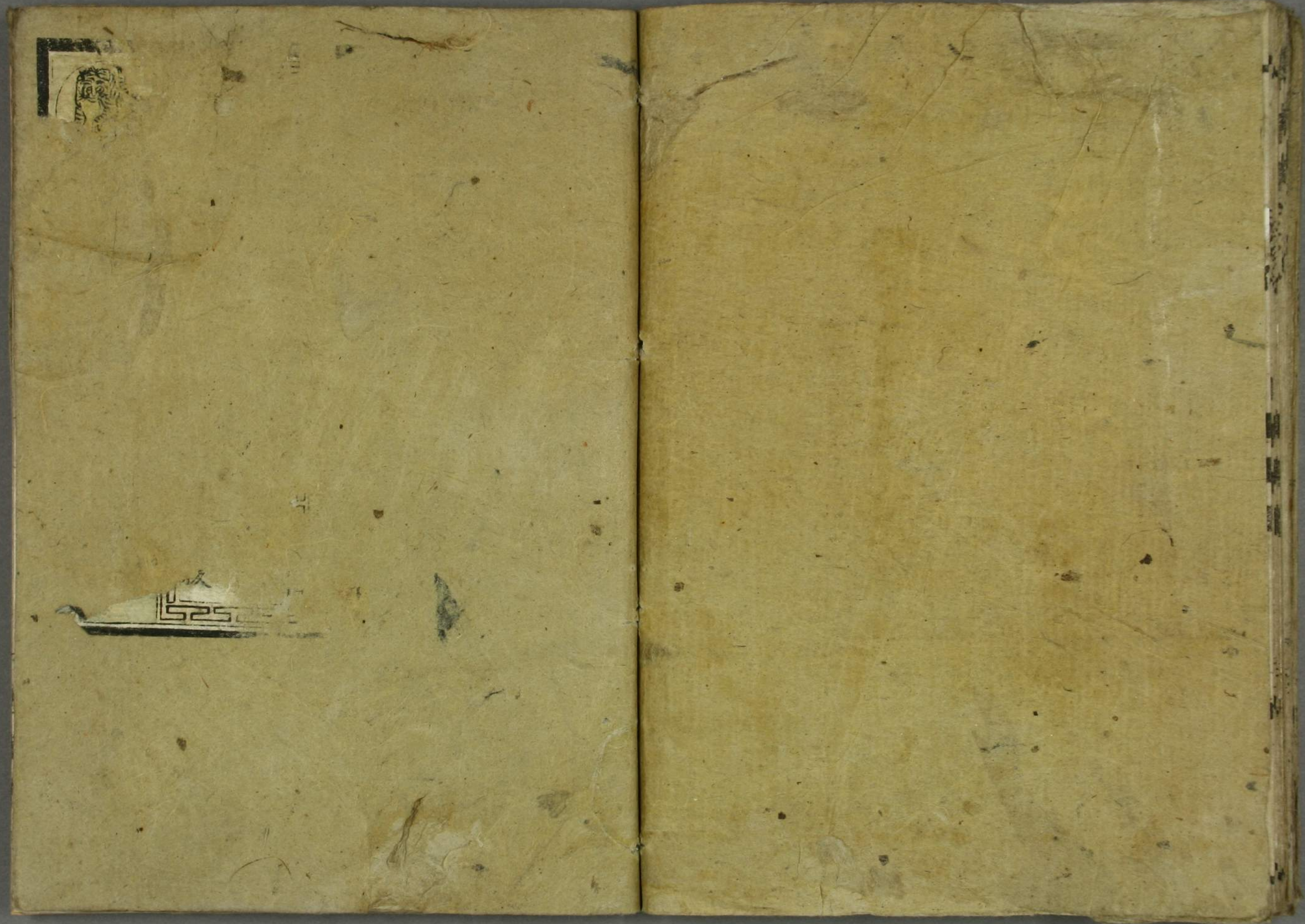
昔もやゆもあなつらけはかり
まやうしすかいらやあかりし
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり
まよひのあかりあつたふらり

「おれはな」
「その通り」



「おれはな」
「その通り」
「あつたふらり」
「まよひのあかり」
「あつたふらり」
「まよひのあかり」

「おれはな」
「その通り」

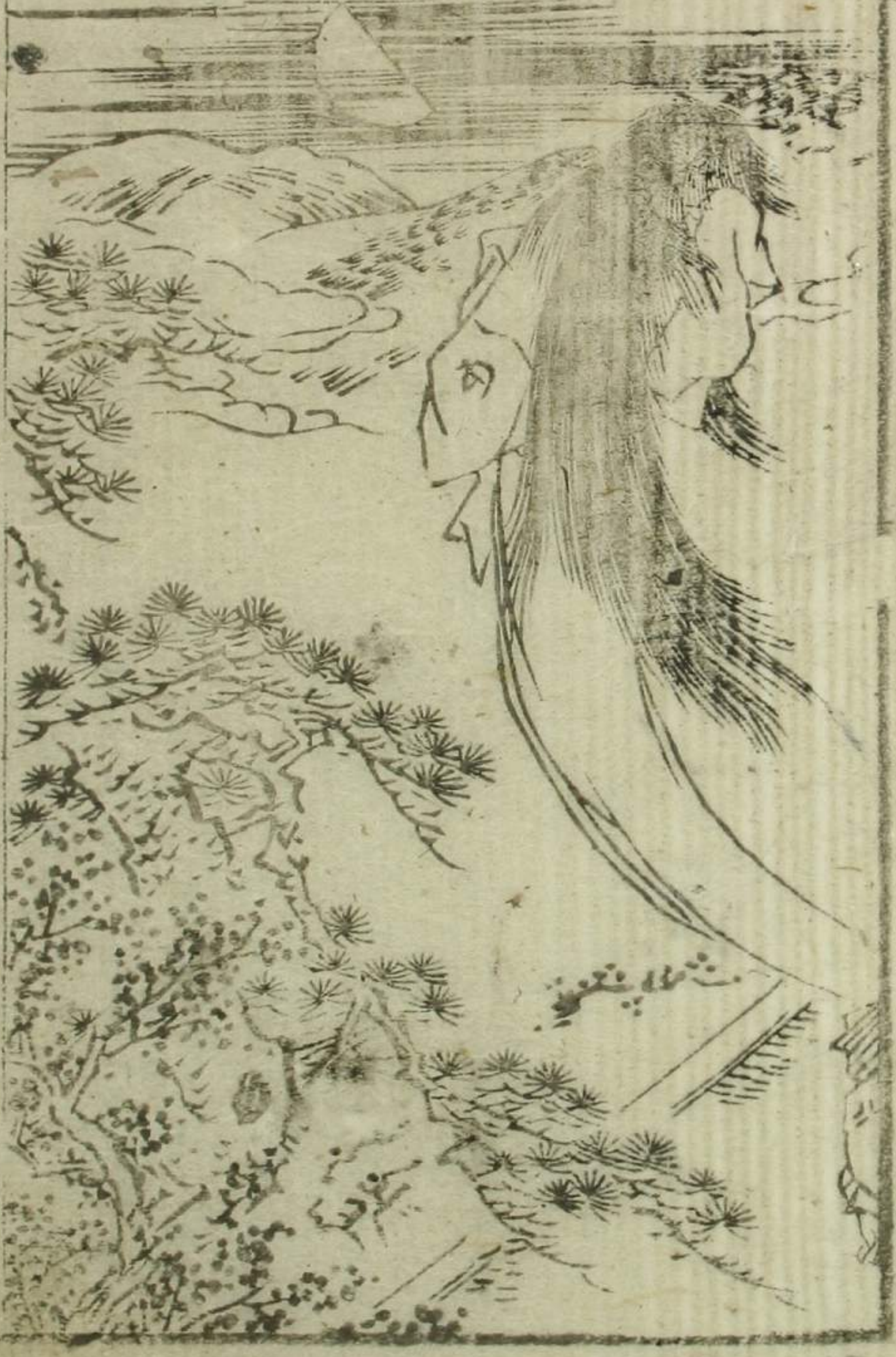


あつたやうな人を見つかる
人の心もさうおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
ひまはくちゅう
くちゅう
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい



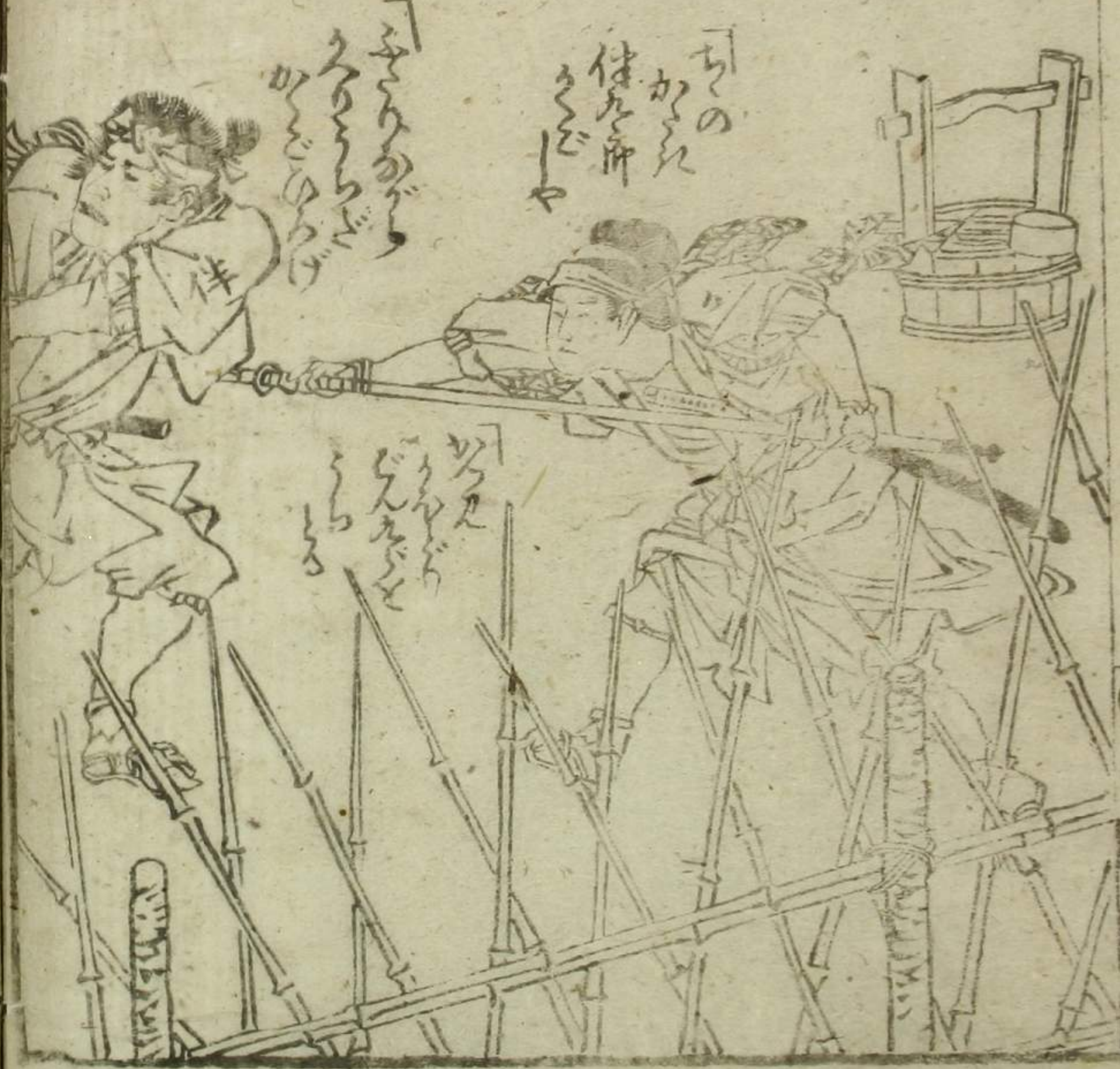
あつたやうな人を見つかる
人の心もさうおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
ひまはくちゅう
くちゅう
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい

あつたやうな人を見つかる
人の心もさうおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
ひまはくちゅう
くちゅう
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい



あつたやうな人を見つかる
人の心もさうおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
ひまはくちゅう
くちゅう
いふことあの人の心もさ
うおもしろい
いふことあの人の心もさ
うおもしろい

かしらとていふそののいそ
 らんしとていふそののいそ
 果たせまうり付なむあくじ
 いしくせんせやあかえら
 と後いしやあかえら
 のたまもあかえら
 かしらとていふそののいそ
 らんしとていふそののいそ
 果たせまうり付なむあくじ
 いしくせんせやあかえら
 と後いしやあかえら
 のたまもあかえら



「あいの
 かたれ
 付を所
 まで
 へ」
 「あいの
 かたれ
 付を所
 まで
 へ」
 「あいの
 かたれ
 付を所
 まで
 へ」

まろてんあうわらわ
 あいあいのあうわらわ
 ひろわりのあうわらわ
 あいあいのあうわらわ
 ひろわりのあうわらわ



まろてんあうわらわ
 あいあいのあうわらわ
 ひろわりのあうわらわ
 あいあいのあうわらわ
 ひろわりのあうわらわ

けろあいのあうわらわ
 あいあいのあうわらわ
 ひろわりのあうわらわ
 あいあいのあうわらわ
 ひろわりのあうわらわ

まじりばんどのらんぶつとあどきりくくと
かあつら
馬琴作



かえんあつて右海が
ちさかちさかめい
たさるるあつて
さかちさかめい
のさかちさかめい
さかちさかめい
さかちさかめい

「かちん
さかち
かちん
さかち」

「まじりばんどのらんぶつとあどきりくくと
かあつら
馬琴作」

かちん
さかち
かちん
さかち
かちん
さかち
かちん
さかち

